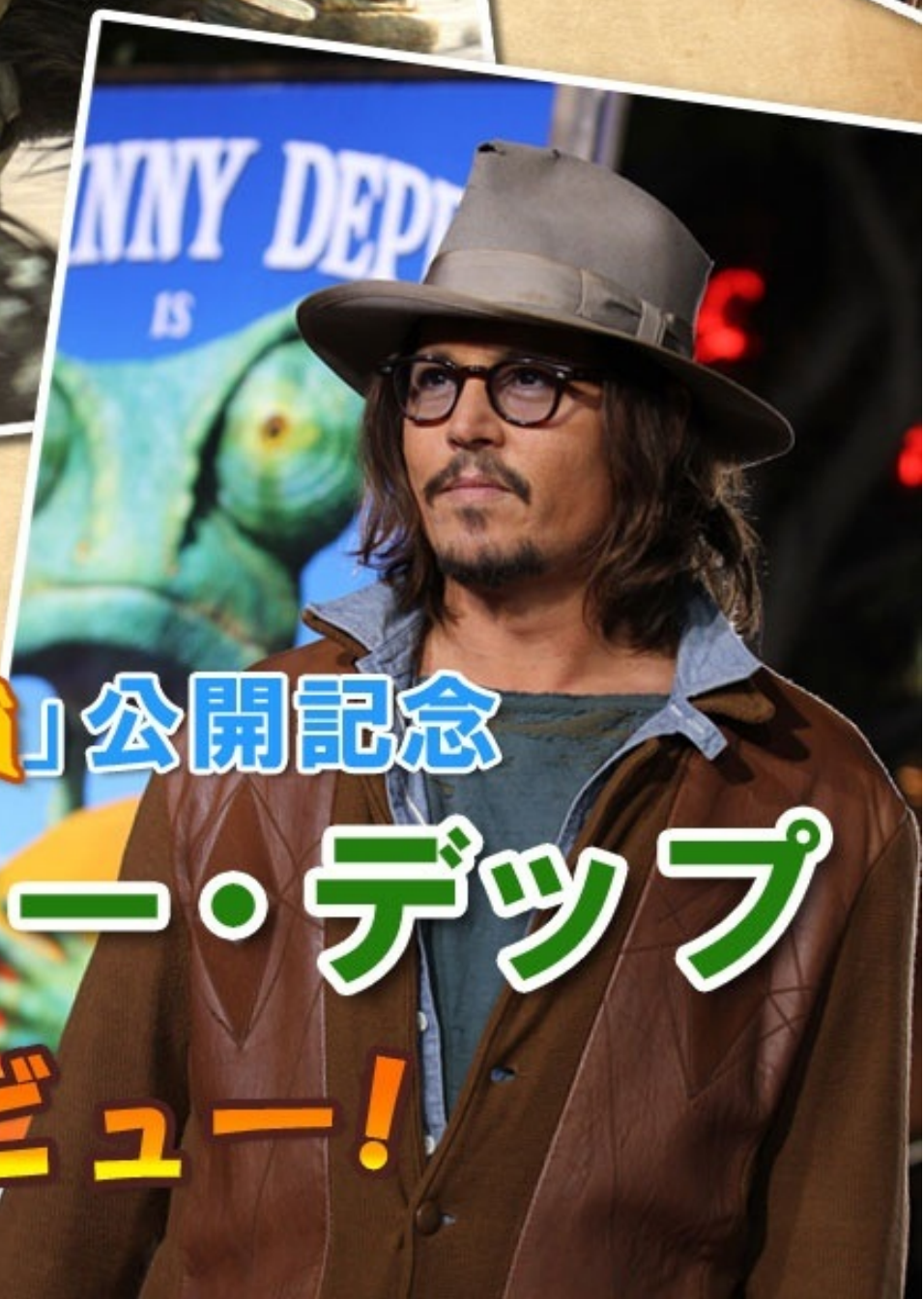


「パイレーツ・オブ・カリビアン」
の最強タッグが贈る
CGアニメーション!



映画「**ランゴ**」公開記念

ジョニー・デップ

インタビュー!



--- 生まれてからずっとはみ出し者だった彼の望みはただ一つ、愛されることだ。

砂漠でさまよう一匹のカメレオン。彼の名はランゴ。
流れ着いたダートという町で彼は思った。

「オレは、もしかしたらヒーローになれるかもしれない」



彼はもともとは飼われていたペットだった。

ある日、ドライブ中に水槽ごと道路に投げ出されてしまったのだった。
ランゴは、水槽という小さな世界のヒーローだった。
自分とオモチャしかない世界だったから…。

でも、現実の世界はキビシイ。

人間関係、生存競争、自分探し……。悩みがつきない。
町からなくなった水を取り戻す依頼を受けたランゴ。
はたして彼は真のヒーローになることができるのか！？

主人公、カメレオン“ランゴ”役にジョニーデップ！

他のメンバーもアイラ・フィッシャー（『お買い物中毒な私！』）、
アビゲイル・ブレスリン（『リトル・ミス・サンシャイン』）など、豪華声優陣にも注目です！

2011年10月22日（土）新宿バルト9 他全国ロードショー！

©ランゴ公式サイト

<http://www.rango.jp/>



『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズのゴア・ヴァービンスキーが監督し、アカデミー賞候補者ジョニー・デップが極彩色のタイトルロールを演じる『ランゴ』。

ダートの町に暮らす風変わりなキャラクターたちを演じてもらうために、映画業界で最もユーモラスでチャーミングな役者たちを集めたゴア・ヴァービンスキーは、アニメーションにおける通常の演技のルールは採用しないつもりであることを彼らに告げた。

通常、アニメ映画に声を吹き込む俳優は、スタジオにやってくると、周りから隔絶された無味乾燥なブースに入り、たった一人で自分の台詞を録音する。

その場合、主眼は音声を捕らえることに置かれている。

しかし、ヴァービンスキーが求めたものは、役者たちから最もコミカルなパフォーマンスを引き出すことのできる、豊かで混沌としたエネルギーだった。そのため、彼は通常とは正反対の方法をとった。

役者たちをステージ上に集め、西部劇の衣装を着せ、ファンキーな小道具を持たせた。

さらには、彼らが臨場感をもって演じられるよう、間に合わせのセットすら作った。

エネルギーとケミストリーに主眼を置いたのだ。

「キャラクターたちの感情を描き出すために役者を基準点とするというゴアのとった方法は、僕が今までやってきたものとはまったく違ったものだった。

小道具を使ったり、歩き回ったり、トカゲ頭にカウボーイハットを被れたことは、役者として非常にありがたいと同時に愉快的な方法だった。

いい年をした大人たちが、バカをやれるチャンスだった」

----ジョニー・デップ



ランゴもスパロウ船長（パイレーツオブカリビアン）同様、自由奔放である。

根っからの役者で、人真似や英雄気取りが好きなランゴだが、本来の自分のままでいるにはどうしたらよいか、いまひとつよくわかっていない。そこがランゴを演じる上でのポイントだった。

デップは、突飛でありながら心を打つトーン、そっけなく不器用でありながら伝説に値するトーンをつかまないとはいけなかった。

「ランゴ役に最適なのはジョニーだと確信していた。

彼がどことなくトカゲっぽいからだけでなく、不条理さ、ハート、思いやり、気まずい瞬間に生まれるコメディといったものをすべて持っているからだ。それに彼も僕も、しきたりや慣習といったものからは可能な限り走って逃げるからね」

---ヴァービンスキー

「昔から爬虫類には親近感と興味を抱いていた。

でもランゴも、実は僕ら人間に通じる部分が多いと思う。彼は自分探しをしているんだ。

彼はカメレオンだからどんなものにも変身できるが、ビーンズやダートの住民たちから、ありのままの自分を受け入れることを学んだ」

---ジョニー・デップ

ランゴ制作秘話（3）アニメーションをつくるために

観客にはランゴの旅に直感的に共感してもらいたい

サボテンの棘の一本一本、路地に入ったときのムツとする熱気、おんぼろビルのがたつき具合、そして何よりもユニークなキャラクターたちの心臓の鼓動を感じてもらいたい、というのが彼の望みだった。

そのため彼は、最もデジタル技術に精通した人々だと彼が考える

「インダストリアル・ライト&マジック（**ILM**）」を選んだ。

『スター・ウォーズ』シリーズのための特殊効果を作るためにジョージ・ルーカスが設立したILMは、それ以来、『ターミネーター』、『ジュラシック・パーク』、『マスク』、『アイアンマン』、『トランスフォーマー』、『アバター』といった大ヒット作で、映画ファンが見たこともないような見事な映像と作ってきた。

しかし、**ILM**がこれまで本格的なアニメ映画に取り組んだことは一度もなかった。

それがヴァービンスキーにとっては大きなアドバンテージとなった。

「ぼくもILMもアニメ映画を作ったことがない。ということは、最低でも他のものとは違った作品になるということはわかっていた。

ぼくはランゴを、ジョニー・デップの体から声だけが離脱したようなキャラクターにしたいはなかった。

ランゴはジョニー・デップそのものだと感じてもらえるようにしたかった。そういうリアリズムはILMが得意とするものだ。」

「個人的にはアニメーションが大好きだけれど、正直、少し懐疑的だった」と、

『パイレーツ』シリーズでもヴァービンスキーと仕事をした視覚効果スーパーバイザーのジョン・ノールは言う。

「その後、この作品の素晴らしいキャラクターたちや背景のデザインを見せてもらった。それで決まりだった。

僕らが好きな、本当に特別なストーリーになる可能性を持った作品だということがわかった。」

そんな想いが詰まったアニメーションに、ぜひ注目していただきたい。

声優陣3人にインタビュー！ジョニー・デップ編

そんなランゴの声優陣3人に、
演じた役やユニークな制作方法についてなどインタビューを行いました！
ぜひ、ご覧ください。

◆ジョニー・デップ



Q 演じた役

まず言えることは、ランゴは成りたい自分は何かを探してる。僕たちと同じようにね。カメレオンとして周りの環境や人々に順応し、受け入れてもらおうとする。

Q ユニークな製作方法について

まさにピッタリの行動だね。モーションならぬエモーション・キャプチャーだ。役者を実際に演技させて、その際の感情表現をアニメのキャラクターの表情に反映させたんだ。

Q 出演理由について

いい大人が集まって、バカをやりながらお金ももらえる。それが僕が出演した理由だね。

Q 監督について

ゴア監督との仕事で退屈な瞬間は全くなかった。彼の卓越したセンスはすばらしいものだ。ドラマでもコメディでもすべてにおいてね。

Q キャストについて

普通はお目にかかれなようなキャストだ。

Qランゴについて

ランゴは最後まで頼れる存在でいなければならない。町の期待に応えるためにね。
住人たちはいわば、彼にとっての観客でありその中では彼はヒーローを演じることができるんだ。

Qどの年齢層が楽しめるか

子供からお年寄りまで十分楽しめる内容になっているよ。この作品に参加できて本当に楽しかった。

◆アイラ・フィッシャー



Q 通常のアニメ映画との違いについて

通常のアニメ収録では音だけしか録らないの。殺風景なブースに入って、監督以外は誰もいない状況で声を収録する孤独な仕事よ。

でもこの作品では 監督は全員をステージに集めたの。そして始めから終わりまで実際に演じ、自分の演技を確認しながら順番どおりに収録したのよ。おかげで自分の立ち位置がよくわかったわ。何より共演者たちから良いエネルギーをもらえた。今までよりずっとクリエイティブなやり方だし、役者としてやりがいを感じたわ。

Q 演じた役について

マメータはプレッシャーに弱い。幽霊を見たかのように体が動かなくなる。私も子供のころ トカゲが同じ反応をするのを見たわ。トカゲが動かなくなるのは、日光を浴びてビタミンDを摂取しているからなの。そうすることでエネルギーを補充しているのね。

Q ランゴとマメータの関係について

ランゴとマメータの関係は変わってるわ。ランゴを最初から見てきた彼女は、ランゴが強くも勇敢でもなくそれが演技だと知ってる。

彼女にとってランゴは掴みどころのない存在で、ダートの町に戻るとなぜかランゴは保安官に任命される。そんな状況にマメータは余計に混乱するの。ランゴはカリスマ的で話が面白くて…自分にはないものをランゴは持ってる。マメータは普通の農家の娘で人付き合いもなかったの。

Q セリフの訛りについて

監督のイメージはホリー・ハンターなの。彼女の代表作「赤ちゃん泥棒」は、私も何度も観てたから、それを参考にしてセリフは早口の訛りにし、南部の発音で話すおてんば娘という感じにしたわ。楽しい演技だった。

Q 監督について

とても協調性のある監督だから、こちらから何でも相談できるの。役者のアドリブに対してもすごく理解を示してくれる。もっとも台本が良かったから私はアドリブは少なかった。

どれもすばらしく良いセリフだったわ。

Q マメータの外見について

マメータの外見は好きよ。巻き毛の髪型やドレスがとてもステキだと思うし、顔の彫りも深いから 私もトカゲになるなら彼女がいいわ。

◆アビゲイル・ブレスリン



Q 通常のアニメ映画との違いについて

これまでのアニメとは収録の方法が全然違うの。ブースに座って声を録るのではなく、実際に皆で演技をしたのよ。映像を見ながら全員で集まってね。それをまた映像に反映させ、収録した声を当てていったの。

Q 演じた役について

プリシラはすごく面白い子よ。まずとてもかわいいでしょ。でも何かしゃべり出すとその可愛いさからは想像できないほど、ビックリする発言をたくさんする子なの。とにかく言いたい放題なのよ！だから演じてて楽しかったわ。

Q プリシラはランゴをどう思っているのか？

町の住人はランゴをヒーローだと思ってる。でもプリシラは彼のことを怪しいと思ってるわ。ヒーローだなんて…。だけど、あることがきっかけで彼を町の皆は信じきってるの。

Q プリシラの外見について

最初に彼女の絵を見た時からすごくクールだと思ったわ。

Q 実際に衣装を着た理由は？

みんな、役に合わせて髪を編んだり帽子や衣装を着たりしたの。そうすることで演じる役に入りやすくなるから。

Q 役の子役との訛りについて

プリシラの南部訛りはしゃべっていて楽しいわ。普段の自分の声とはまるで違うから。

Q 作品のメッセージ

ありのままの自分であることを伝える作品だと思うわ。ランゴも最後にそう気づく。

{自分らしくあれ}というのが、この映画のメッセージだと思うわ。

映画「ランゴ」公開記念 ジョニー・デップにインタビュー！

<http://p.booklog.jp/book/36757>

著者：ランゴ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/rango/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36757>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36757>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.